

# 北社会ニュース オ73号

2011年6月23日

発行者：鈴木壮夫

3月11日の東日本大震災から100日以上が過ぎました。二高の同期生の諸兄から被害がひどかった南三陸、気仙沼、石巻等々を見舞った感想その他を連絡いただきます。電話の都度、終り近くになると双方の言葉が途切れがちにいつもなります。それは、ある哲学者が新聞に寄稿していましたが《隔たり》が大きく広がっているのです。被災した人たちと被災しなかった人たちの間で、さらに被災した人たちどうしの間で《隔たり》が強く意識させられていると述べております。被災直後、茫然とするばかりだった被災者の心に、時がたつにつれてじわりじわりと喪ったものの大きさが沁みでてくる。家族や友人、あるいは家、あるいは職というこれまでみずからの生存の根であったものを失い、どう自らを立て直すべきか途方に暮れるうち、だんだん言葉少なくなっていく。「元」に戻ることを断念せざるをえない人も少なくないと思う。一人ひとりの記憶が深く刻まれた柱や瓦、日用品の数々がひとまとめに「がれき」と呼ばれるのは耐えがたいことだと思う。「東北がんばろう」とか「お見舞い申しあげます」という、被災しなかった人たちが心から応援している言葉すらがもはや惰性と化した物言いになってしまっている。そして、政治の混迷が続いている。でも、厳然たる事実が存在する。“日本列島はアジア大陸の東の隅に、四つの巨大なプレートの上に乗っかるような、危ないかっこうで位置している。別の大地震が近い将来、間違いなくやってくると多くの学者が予測している。”首都圏が襲われたら……。一人ひとりはこの生活を維持していくことだけで毎日がただ過ぎ去っていく。何とかしたいと思っています。

## (1) 6月27日－第290回北社会－

講師： 福原卓彦氏と私、鈴木壮夫 (高11回)

テーマ：「70才の独り言」

福原氏は地震直後の3月15日、私は3日後の18日に70才を迎えました。今回、私達が指名された一つの根拠はこれから60才の定年を迎える私達からすれば若い世代から「参考」にしたいということが発端です。ご期待にそえるかどうか半信半疑ですが、包み隠さず正直に語ります。

## (2) 今後の北社会の目指すもの、及び講師の自薦他薦について

メールにて会員の皆さんにお願いしたところ下記の方々より貴重なご提案をいただきました。

青山史朗氏、庄子信氏、落合道夫氏、阿部孝一氏（北陵会）、村松廣一氏の皆さんありがとうございました。北社会をより魅力ある東京同窓会のひとつの組織に育て上げていくには会員の皆さんの協力と当事者意識が必要だということ思いしらされました。近いうちに世話人で相談してご提案します。

## (3) 青山史朗先輩からのお誘い

裏面のお葉書の通りこの夏の避暑についてご提案をいただきました。

前略 ご無沙汰致しておりますがお元気ですか。

この夏の避暑先はお決まりでしょうか。私は下記

日程で予約済ですが、同伴者を募集しています。

日時 8月3日(水)～25日(木)18日間

場所 長野県上田市鹿教湯温泉1259-2

国民宿舎「鹿月荘」0268-44-2206

交通 長野新幹線上田駅下車バス50分

上信越自動車道 湯の丸ICから40分

費用 一泊二食付き 7710円(ベッド)

ここは全国に数ある国民宿舎のなかでも最も人気  
が高く予約をとることは難しいのですが、十年来  
使用してきた実績で洋室を確保しました。

希望の日を電話かFaxでご連絡くだされば調整  
してご返事いたします。

青山 史朗 ☎3405-1788 Fax 3405-1789

戦後66回目  
野球定期戦

# 仙台二高、逆転V



試合終了後、互いの健闘をたたえる一高の本内主将(手前右)と二高の柴田主将(同左)

仙台一高・仙台二高野  
球定期戦が14日、仙台市  
宮城野区の日本製紙クリ  
ネックスタジアム宮城  
で行われ、二高が3-2  
で逆転勝利、2年ぶりに  
優勝した。

両校合わせて6400  
人の生徒、OBらが詰め  
掛けた。東日本大震災で  
春の公式戦が中止になる  
中、戦後66回目となる伝  
仙台 001100000002  
仙台 001000002X32

統の一戦は盛り上がった。

二高は1-2の八回1  
死満塁から安田慎太郎捕  
手が2点適時打を放ち逆  
転。一高は五回以降、打  
線が散発と安打と振るわ  
ず、逃げ切れなかった。

一高は、地震と津波の  
被害で若林区荒井の練習  
グラウンドが使えなくな  
り、二高で合同練習も行  
った。

一高の本内大吉主将は  
「二高は全力でぶつかっ  
てきてくれた。練習環境  
は今も厳しいが、夏の勝  
利を目指す」と誓った。

二高の柴田健吾主将は  
「最高の試合をして互い  
を高め合えた」と語った。

試合前、両校野球部O  
Bが募金活動を行い、集  
まった37万2209円を  
一高野球部に贈った。

戦後の優勝回数は二高  
が29回、一高が28回、引き  
分け9回となった。通算

成績は二高の69勝62敗2  
分け。